

病理精度管理の現状と将来展望 —日本臨床衛生検査技師会との連携—

◎鬼島 宏¹⁾弘前大学大学院医学研究科病理生命科学講座¹⁾

病理検査・診断は、疾患の確定診断に不可欠であるのに加え、治療方針決定などにも大きく寄与しています。このため、質の高い検査・診断が行われることが、患者さんに対して適切な医療が施されることと直結します。日本病理精度保証機構は、平成26(2014)年に日本臨床衛生検査技師会・日本病理学会をはじめ関連学会との連携の下で、特定非営利活動法人(NPO法人)として設立されました。国内の各医療施設が質保証の下で病理検査・診断を行うには、病理技術や診断基準の標準化に加えて、施設内での精度管理・多施設参加の精度保証が必要不可欠です。当機構は、精度管理支援事業として参加医療施設の外部精度評価活動を行うとともに、各施設内での精度管理支援や精度管理に関する啓発活動を行うことで、機構の目的達成に向けて努力しています。国外に目を向けると、組織病理のみならず分子病理の外部精度評価が継続的に行われ、医療に不可欠な活動として実績をあげている国々も見られます。今後は、諸外国との連携も強化しつつ、国民が適切な病理診断と治療の恩恵を受けることができるような病理精度管理・質の保証を目指します。本講演では、日本病理精度保証機構の活動実績を中心に、我が国における病理精度管理の現状と将来展望について解説いたします。

連絡先—電話番号: 0172-39-5029; E-mail: hkijima@hirosaki-u.ac.jp